

GPS 安全性要約書

ポイズ 520

この製品安全性要約書は、一般社会へ化学物質の安全性情報の概要を提供するものです。この文章は、サプライヤーから提供される、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全性データシート (Safety Data Sheet) に代わる文書として作成されたものではありません。また、製造者から提供される、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりますが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定名

商品名： ポイズ 520

化学名： Acrylic acid/maleic anhydride copolymer sodium salt

CAS 番号： 52255-49-9

2. 使用・用途と適用

ポイズ 520 はポリカルボン酸型高分子界面活性剤であり、台所用洗剤等に使用されています。ポイズ 520 は産業分野において紙・パルプや塗料等の分散剤、化学プロセス用の分散剤として使用されています

3. 物理化学的特性

この物質に物理化学的危険性は認められません。

特性	値・性状
物理的状态	粘調な液体
色	淡黄色
臭い	ほとんど無臭
pH	8.2 (原液)

密度	1.3 g/mL (20°C) 1.29 g/mL (60°C)
融点 (流動点)	-15 °C
沸点	102-103 °C
引火点	検出せず
燃焼又は爆発範囲	情報無し
自然発火温度	情報無し
蒸気圧	情報無し
水への溶解性	可溶
オクタノール/水分配係数 (LogKow)	情報無し
粘度	450 mPa・s (20°C) 250 mPa・s (30°C) 120 mPa・s (50°C)

4. ヒト健康影響

ポイズ 520 の短期および繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられます。

アセスメント項目	結果
急性毒性：経口/経皮	経口/経皮暴露後の毒性はありません。単回暴露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
刺激性/腐食性：皮膚/眼	入手可能なデータから、刺激性/腐食性はないと考えられます。
感作性	入手可能なデータから、皮膚感作性はないと考えられます。
繰り返し暴露による毒性：	實際上、長期または繰り返しの経口暴露により毒性を示さないと考えられます。
遺伝毒性	入手可能なデータから、遺伝毒性はないと考えられます。
発がん性	入手可能なデータから、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

5. 環境影響

魚類、水生無脊椎動物、藻類に対する試験結果から、ポイズ 520 は水生生物に対する毒性は無いと考えられます。一般的な高分子の情報から、難分解性を示すと考えられますが、下水処理等によって除去されると考えられます。また、食物連鎖における濃縮の可能性も低いと考えられます。

アセスメント項目	結果
水生毒性	水生生物に対する毒性は示さないと考えられます。
生分解性	難分解性と考えられます。
PBT / vPvB 注)	PBT/vPvBには該当しません。

注)

PBT = Persistent, Bioaccumulative and Toxic (残留性・蓄積性・毒性を有する物質)

vPvB = Very Persistent and Very Bioaccumulative (高残留性・高蓄積性を有する物質)

6. 暴露

消費者

消費者は洗剤の使用によりポイズ 520 に接触する可能性があります。これらの用途におけるポイズ 520 の短期および繰り返し暴露による有害な影響の懸念はないと考えられます。推奨される用途で使用される場合、常に使用前に製品情報を参照し、ラベルや能書に記載されている使用上の注意に従ってください。

作業員

ポイズ 520 の生産設備や多くの取り扱い設備では、作業員がこの物質に暴露される可能性があります。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストやその他の作業においても暴露される場合があります。教育を受け訓練された作業員のみが、この物質を取扱います。各製造設備では不必要な暴露を避けるためにゴーグルや手袋などの安全防具の設置と共に、作業員向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。作業員は **Safety Data Sheet** に記載されている応急措置に従う訓練を受けることが求められます。

環境

ポイズ 520 は消費者用製品の使用に伴う排出と同様に、生産設備や製造、準備・、取り扱い・貯蔵・配合など工業的に取り扱う場所から排水処理施設へと排出されます。この物質は排水処理施設で効率的に取り除かれると考えられます。排水中にわずかに残った場合、水生生物に対する毒性の懸念は無いと考えられます。また、食物連鎖によって濃縮されないため、環境を経由した人への暴露は懸念されません。

7. 推奨リスク管理措置

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認してください。手や皮膚の保護のために適切な耐化学薬品手袋を常に着用し、眼の保護具を装着してください。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないでください。皮膚(または髪)に付着した場合、汚染された衣類を脱いでください。多量の水と石鹼で洗い、皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けてください。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けてください。眼刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けてください。

この物質を含む排水は、この物質を除去するため、排水処理設備を通してください。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHS に基づき、化学物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険性に従って分類されています。この危険性の情報は、工業製品では、特定のラベルと **Safety Data Sheet** によって伝達されています。GHS では化学物質の暴露が想定される対象者（作業員、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解できるように努めています。

分類・ラベル情報

この物質は、ヒトや環境に有害な影響を及ぼす物質に分類されません。

製造、販売、輸送、使用、廃棄に関わる法令は、国や地域によって異なります。詳細についてはサプライヤーから提供されるSafety Date Sheetを参照して下さい。

9. 結論

ポイズ 520 は難分解性と考えられますが、排水処理施設で効率的に除去されること、水生生物への毒性を示さないことから環境へのリスクは懸念されないと考えられます。ポイズ 520 の短期および繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられますが、作業者は標準的な安全管理手法に従い Safety Data Sheet を参照する必要があります。消費者に使用上のリスクは無いと考えられます。

10. 連絡先

この物質・安全性要約書に関する、詳しい情報については以下にお尋ね下さい：

会社名、部署	花王株式会社、ケミカル事業部門
電話番号	03-5630-7601
ファックス番号	03-5630-7964
電子メール	chemical@kao.co.jp

追加・関連情報に関しては、一般社団法人日本化学工業協会が提供する「化学物質リスク評価支援ポータルサイト」をご覧ください。

(<https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/top>)

11. 用語集

ハザード	ヒト健康や環境への有害性
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和
急性毒性	単回暴露による有害な影響
感作性	アレルギー誘発性
変異原性	遺伝子に変異をもたらす影響
慢性毒性	繰り返し暴露による有害な影響
生殖毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
発がん性	がんを引き起こす作用影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
生物濃縮性	環境における物質の濃縮性

12. 発行日

2019年12月20日